

⑤ 酒を公平に半分こだあ

「いづも世話になってっけ……」
といて、畠山さんがとっておきの酒を持って
春田さんの家を訪ねてきた。

「だども、この酒さ、ほんねえ珍しくてさあ。この
1本しか残ってねえがら、半分だけ取ってけろ。
ちょうど半分だどお……」
と念を押す畠山さん。



さて、春田さん、考えた。
『二つの同じ容器に移し替えて量を比べればええんだども、同じ容器が二つねえんだてば・・・』

ちょうど半分だけ、ビンからかめに
移し取ろうと思う春田さんだが、さて、
どうしたらちょうど半分だけ取れるん
だか・・・

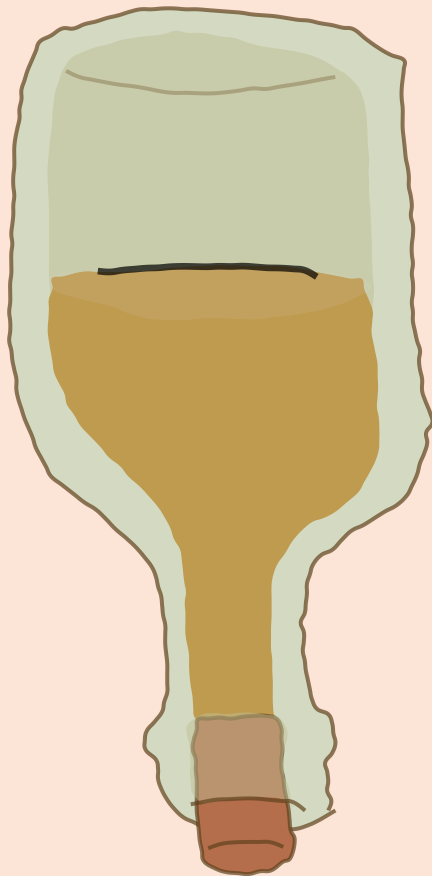




春田さん、まず、栓を抜いて、自分
のかめに酒を注ぎ入れた。
「この辺かな・・・」

そして、ビンを立てて、残った酒の
水面に印の線を書き入れた。



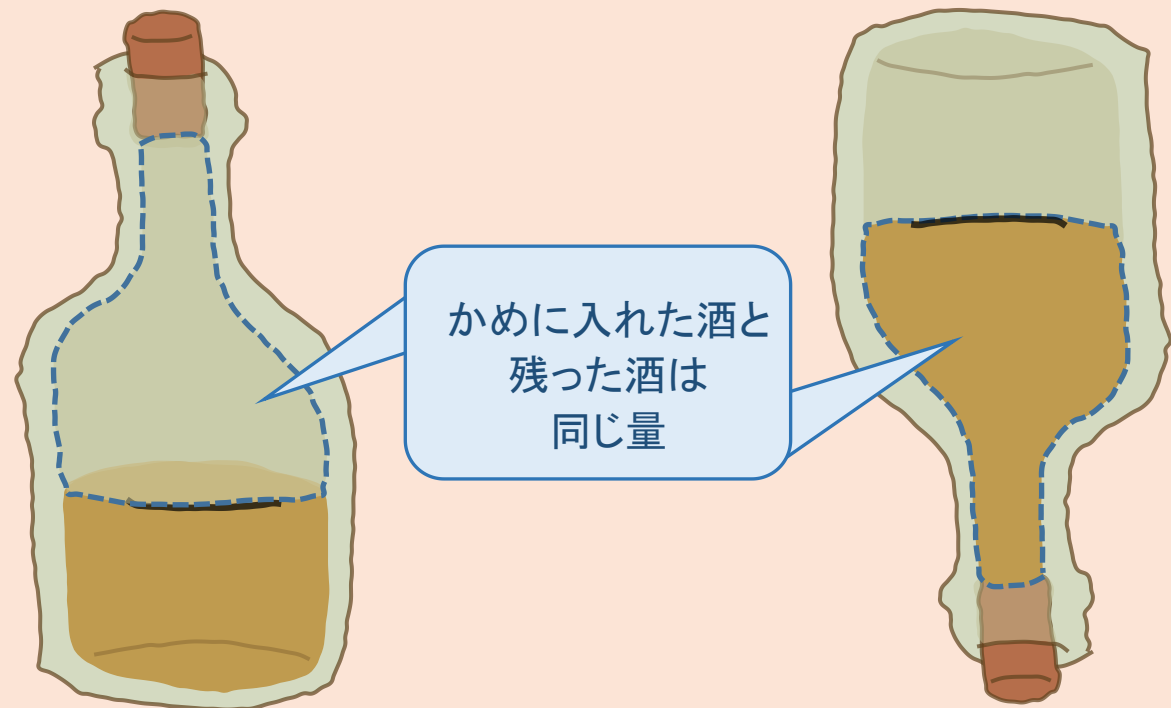


そしてビンに栓をして、逆さまに
ひっくり返した。
「これで酒の水面が印の線と重な
れば・・・ おっ、これでちょうど半分
だあ」

「おれ、わかんねっけ、説明してけろ」
畠山さんは春田さんに聞いた。
春田さんの説明は、こういうことだった。

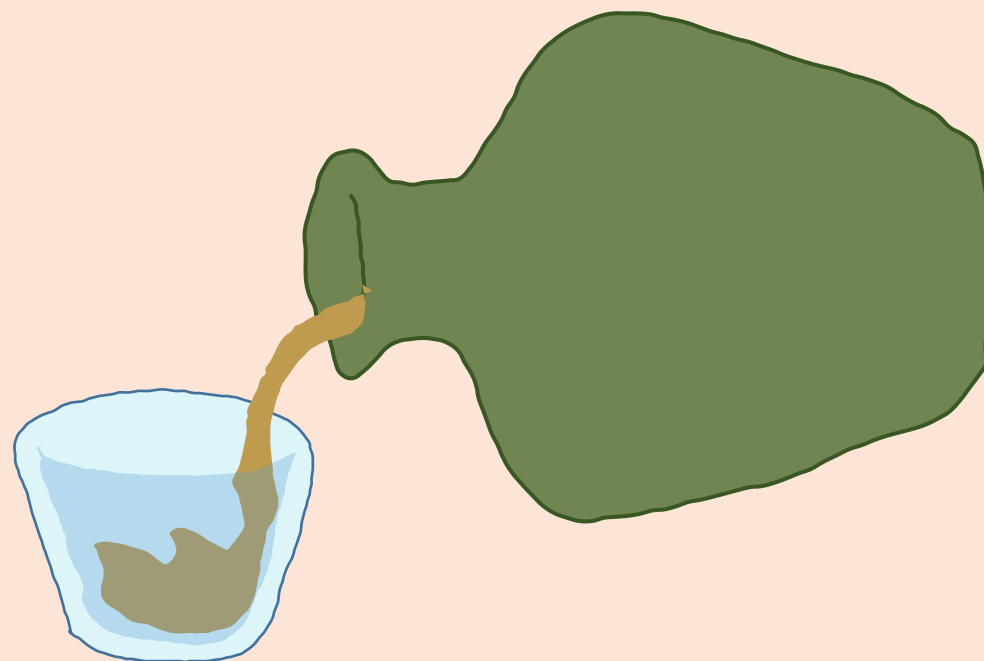
かめに移したあとの酒ビンの中には、酒と空気しか入っていない。この空気はかめに入れた酒と同じ容積だ。

これをひっくり返したとき、酒と空気の境目がちょうど印の線の上にくれば、残った酒が空気と、つまりかめに入れた酒と同じ量だということになる。



「合点がいった！」
と畠山さん。

「さあ、飲むべ」



「ナス焼酎って、できねえもんだべか？」